



当モデルハウスは、フランク・ロイド・ライトの建築美学によりデザインされた「ユートニアハウス」という平屋ベースの家屋を日本の風土・気候に合わせて建築。「ユートニアハウス」は世界遺産にも登録されたジェイコブス邸（1936）が代表的なデザインスタイルであり、全米に200棟近くが建築された人気の建物でありながらも、築後80年を超える現在でも、実際に住み継がれている家でもある。

また、「全ての人が快適で豊かな生活を送ることができる家」をテーマに設計されたこの住まいは、コンパクトでありながらも、世界で最も美しい住空間を実現し、飽きのこない住まいとして有名である。

尚、このライト建築の美学を活かした2棟のモデルハウスは、親世帯と子世帯にとって、建築するにあたり現実的なサイズ【34坪・29坪】で設計されており、お互いの世帯が程良い距離に住みながら、共有スペースの庭を通し、【言葉をかわさなくとも気持ちや意識がつながる】仕掛けとなっている。当モデルハウスは、少子高齢化によってニーズが高まるIoT化等にも対応。IoT住宅は暮らしや家事を便利にするだけでなく、そのシステムや仕組みを利用して省エネや防犯、健康維持、家族の見守りなどにも対応している。

更に、国土強靱化計画にも推奨された地盤改良工法であるスーパージオ工法を軸に、最大1億円の保証、震災時のライフラインの供給の「場」として停電時に車の電力を宅内で使用できるV2Hや太陽光発電システムをはじめ、断水時に安全な水を常時最大370ℓ確保する等、災害時のニーズを満たす提案となっており、少子高齢化による変形家族【4人家族以下】が増えている地方商圏である山口県において、今後需要が求められる住宅のモデルケースの1つを実現している。



